

令和2年2月4日

新型コロナウイルス関連肺炎に対する透析施設での対応について（第1報）

公益社団法人 日本透析医会
会 長 秋澤 忠男
感染防止対策部会
部会長 秋葉 隆

1. はじめに

2019年12月以降に中国湖北省武漢市を中心に発生した原因不明の肺炎患者について、中国は新型コロナウイルス（Novel Coronavirus : nCoV）が関連していると発表した⁽¹⁾。その後、短期間で nCoV 関連肺炎は世界中に広がっており、世界保健機関（WHO）は nCoV 関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」に該当すると発表した⁽²⁾。

日本国内では、2020年1月15日に武漢市に渡航歴のある肺炎患者から nCoV が検出され、以降は徐々に nCoV 関連肺炎患者が増加している⁽³⁾。nCoV 関連肺炎が人に伝染することが確認されたため、感染が確認された際に強制的な入院などを指示できる「指定感染症（2類感染症）」に定められた。

2月3日現在、中国国内で17,000人以上の感染者、400人以上の死亡者が報道されており、日本でも中国滞在の既往があった方を主に20名の感染者が発生しているという。

日本透析医会では、現時点での情報から透析施設における対応策をまとめたのでご参考頂きたい。

なお、まだ現時点では情報は限られており、厚生労働省からの情報など、最新の信頼のできる情報を参考にされたい。

2. nCoV 関連肺炎について

中国武漢市の魚介類卸売場で集団発生した nCoV 関連肺炎は、主に飛沫感染と接触感染により、人から人へ感染することが分かっており、空気感染の可能性は少ないとされている^(4,5)。また感染してから呼吸器感染症状が現れるまでの期間は3～14日ほどとされており、その間も感染を広げる可能性が示唆されている。また、呼吸器感染症状がほとんどない感染者も報告されている。

3. nCoV 関連肺炎の疑いがある患者とは⁽³⁾

①かつ②を満たす場合を「疑い患者」とする。

① 37.5度以上の発熱かつ呼吸器感染症状を有している。

② 発症から2週間以内に以下の曝露歴のいずれかを満たす場合とする。

- ・ nCoV 感染患者またはその疑いがある患者と必要な感染予防策なしで 2m 以内での接触歴がある。
- ・ 湖北省など流行地域から訪日しているか、湖北省など流行地域への渡航歴がある。

4. nCoV 関連肺炎の診断

各自治体の地方衛生研究所ならびに国立感染症研究所での遺伝子検査（PCR）によって行われる⁽³⁾。症状や渡航歴、患者への接触歴などから発症が疑われる場合は、当該医療機関を所管する保健所に連絡ののち、発症後 5 日以内に採取した喀痰（または気管支吸引液）、咽頭拭い液、血液などを採取して検査を依頼する。

5. 透析施設の患者への啓発について⁽⁶⁾

発熱やせき・息切れなどの症状があり、14 日以内に中国湖北省を中心とする nCoV 関連肺炎感染症の流行地域から帰国したか、または nCoV 感染症の患者と濃厚な接触があった透析患者は、来院前に必ず透析施設に電話連絡をして、その後の指示を受けるように啓発する。必要時には当該医療機関を所管する保健所に連絡し⁽³⁾、nCoV 感染の有無の検査を受ける必要があることを啓発する。くれぐれも連絡無しでの透析施設への直接の来院は避けるように徹底する。

6. nCoV 関連肺炎の疑いがある透析患者へのスクリーニング⁽⁵⁾

発熱または呼吸器感染症状を訴える患者に対して以下の有無を確認する。

- ① nCoV 感染患者またはその疑いがある患者との接触がある。
- ② 湖北省など流行地域から訪日しているか、湖北省など流行地域への渡航歴がある。
- ③ 湖北省など流行地域から訪日しているか、湖北省など流行地域への渡航歴があり、発熱かつ呼吸器症状を有する人との接触がある。

7. nCoV 関連肺炎の疑いのある透析患者に対する感染対策⁽⁵⁾

nCoV 関連肺炎を疑い患者には、インフルエンザなどの一般的な呼吸器感染症の除外診断を行い、nCoV 関連肺炎が強く疑われる場合には当該医療機関を所管する保健所に報告する⁽⁷⁾。現時点では、確定診断がいたら保健所の指示を受け陰圧室のある感染専門施設で入院加療する。

コロナウイルス感染症を疑いがあるものの一般の施設で診察および透析を行わざるを得ない場合には、標準予防策に加えて接触感染と飛沫感染予防策を徹底する必要がある。

- ① 患者にはサージカルマスクを装着させる。
- ② 診察および透析を行う場合には、個室隔離が望ましい。個室隔離透析が不可能な場合には、飛沫距離を十分に考慮したベッド間隔（2m 以上）を確保する空間的隔離か、時間的に他の患者と接触しない対策を確保する時間的隔離を行う。
- ③ 診察室および透析施行に際しては十分な換気を行う。

- ④ 医療者が診察や透析医療を行う場合には、個人防護具（Personal Protective Equipment ; PPE）を用いる。非透水性ディスポーザブルガウン、サージカルマスク、ゴーグルまたはフェイスシールド、ディスポーザブル手袋を着用する。
- ⑤ 透析患者の更衣などは、他の透析患者と接触がないように、別室を使用するなどの対策を行う。
- ⑥ 透析後の清掃および消毒は、肝炎ウイルスに使用している中水準消毒で対応する。

※標準予防策、PPE、接触感染および飛沫感染、環境の清掃および消毒の詳細は、「[透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（四訂版）](#)」を参照頂きたい。

重症急性呼吸器症候群（Severe acute respiratory syndrome, SARS）においては腎疾患、心臓病、糖尿病等の患者が重症化しやすかったことを踏まえ、透析患者に対しては、一般の患者以上に慎重な対応が求められる。

参考文献

- (1) Li Q et. al. Early Transmission Dynamics in Wuhan, Ch ina, of Novel Coronavirus-Infected Pneumonia. January 29, 20 20
N Eng J Med DOI: 10. 1056/NEJMoa200131
- (2) Novel Coronavirus (2019-nCoV) technical guidance
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/technical-guidance>
- (3) 新型コロナウイルス感染症の現状の評価と 国内のサーベイランス、医療体制整備について(2020年1月31日時点)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov.html>
- (4) Munster VJ et. al. A Novel Coronavirus Emerging in China-Key Questions for Impact Assessment. N Eng J Med DOI: 10. 1056/N EJ Mp2000929
- (5) Li Q et. al. Early Transmission Dynamics in Wuhan, Ch ina, of Novel Coronavirus-Infected Pneumonia. January 29, 20 20
N Eng J Med DOI: 10. 1056/NEJMoa200131
- (6) 中国で報告されている新型コロナウイルス関連肺炎に対する透析施設での対応について
https://tokyo-hd.jp/contents/documents/20200123_01.pdf
- (7) 中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎について
(令和2年1月30日版)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09225.html

なお、ウェブサイトの記載は2020年2月1日現在。